

毎日の生活の中で、関わるの積み重ねにより育むことができる「生きる力」
幼児期に育むには、「8つの力」とそれを引き出す関わり方を紹介します。

① 親に依存して生きることから「自立」の世界へ！

・ 甘えることができたらどうもほどよい申し訳る …… 自分の足で立つ力

② 生きていく上で必要「自分で考え 決断する力」

言葉の発達とともに、日々の会話の積み重ねで養いたい …… 考える力

幼児期から場数が大切！ 年齢に応じた質問で養いたい …… 決断力

③ 良好な人間関係を築く上で大切への能力

コミュニケーションの要！ 相手の気持ちを鬼にやる …… 共感力

自分の主張を一部見け、相手と譲り合おう …… 協力力をつける力

④ 学校や社会で成功、活躍する鍵！

一心の筋肉！ 困難に負けない力 …… レジリエンス

才能や知能指数より生大事！ やり抜く力 …… クリート

IQよりも学力に影響大！ 今を我慢する力 …… セーフコントロール

子どもは遊びを通して多くのことを学んでいます。

運動スキル …… 総合的なスキルから、手足などの局所的な運動スキルが身につきます。

思考力 …… 「なぜならどうすればいいか？」といった推測力や論理的思考力、また問題解決するためのアイデア(水平思考)。

言語力 …… 相手に伝えるために工夫することで表現力や言語力が身につきます。

自制心 …… これ以上すると相手を傷つけてしまうからと自らの行動を制御する感情を学びます。

想像力 …… イメージが勝手に形になるとすることで想像力が豊かになります。

社会性 …… レールを覚え、相手を鬼にやり、協力し合い …… と社会で必要となる姿勢を身につけています。

人が最大限の力を發揮できる「フロー状態」 …… 遊びを通して、自然的に深く遊びに没頭する、リラックスした集中力を

遊びのすごいところは、こうしたスキルや能力を、習いごとのように大人の指導によって学ぶのではなく、
自然的に楽しむから身に付けてもらえることです。

遊び上手
導くヒント

- ① 場と時間の確保
- ② 「仕事モード」を横に置く
- ③ 五感を活用する
- ④ 応用の利く玩具を与える
- ⑤ 想像力を刺激する言葉かけをする
- ⑥ 普段から想像力を豊かにする働きかけ

これがどこでいません？

- ・命令・指図
- ・禁止
- ・容認できない
- ・努力の強要

「そのままでいい」
生き生きと「自分らしさ」を「じっくり」
「じっくり」
ポイント

- ・自分の気持ちを大切にする
- ・自分の気持ちから行動重視していることをほめてあげる
- ・成功も失敗も「体験」することの大切さを伝える
- ・子どもの試行錯誤を先回りして援助しない
- 見守る忍耐力をもつ



「子ども 3歳の
ヒントはめまい
しいです。」

など細々としたことで自らの行動の積み重ねから「自信」や「生きる力」を育てます。

